

～これまでの100年を礎に、これからの100年を創る。～

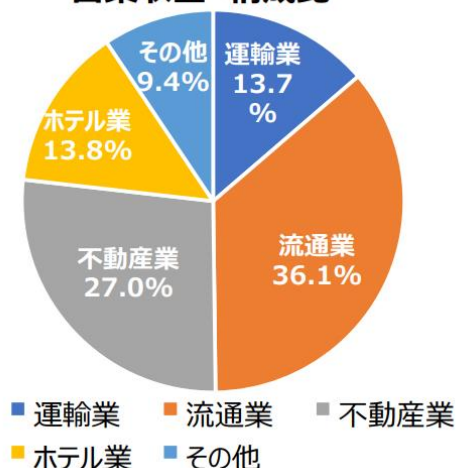
交通ネットワークの拡大を契機とした 取り組みについて

相模鉄道株式会社
営業部 鈴木 昭彦

相鉄グループの事業について

➤ **相鉄グループ**…相鉄ホールディングスを持株会社とし、子会社35社、関連会社2社で構成する企業集団

2023/3期 セグメント別
営業収益 構成比



運輸業（2社）

➤鉄道業

本線、いずみ野線、
新横浜線、合計
42.2kmで営業。



➤バス事業

横浜市内と神奈川
県央部を中心に地
域の足として、乗合
バスを運行。



流通業（5社）

スーパーマーケット「そうてつローゼン」やコンビニエンスストア、駅の売店などを展開。



そうてつローゼン南まきが原店

不動産業（7社）

➤分譲業

マンション、戸建住宅を開発・分譲。

➤賃貸業

商業施設やオフィスビルを開発・運営。



ホテル業（12社）

宿泊特化型ホテルや、フルサービス
ホテルの開発・運営を行う。



その他（9社）

建物の管理・メンテナンス
業などを展開。



相鉄線について

路線図



路線延長：44.4km（旅客営業42.2km） 駅数：27駅

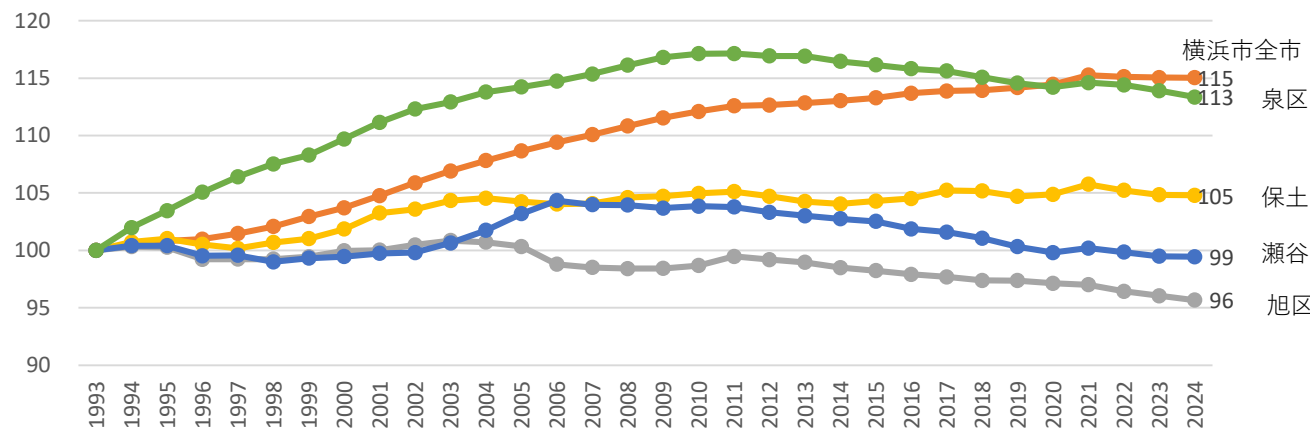
▶横浜市を東西に、神奈川県央部まで結ぶ

▶大手民鉄では、最もコンパクトな路線

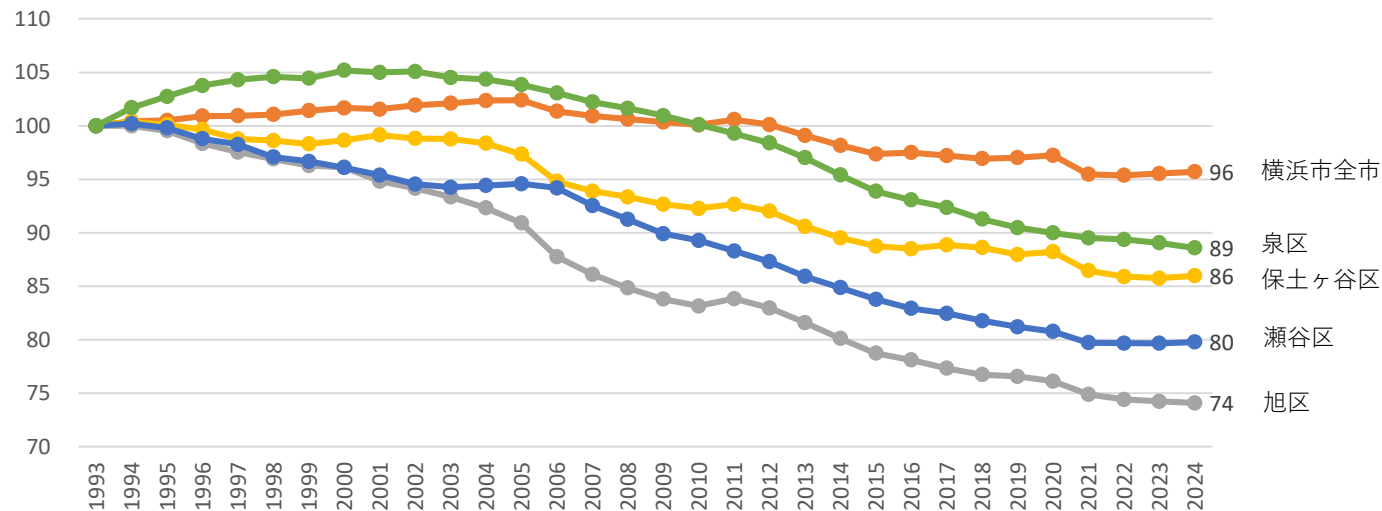
線 名	区 間	営業キロ程	
相鉄本線	横浜～海老名	24.6km	複 線
相鉄いすみ野線	二俣川～湘南台	11.3km	複 線
相鉄新横浜線	西谷～新横浜	6.3km	複 線
厚 木 線	相模国分～厚木	2.2km	単 線
合 計		44.4km	

横浜市沿線各区の人口推移

横浜市全体と沿線各区の人口推移（1993年を100とする）【総人口】

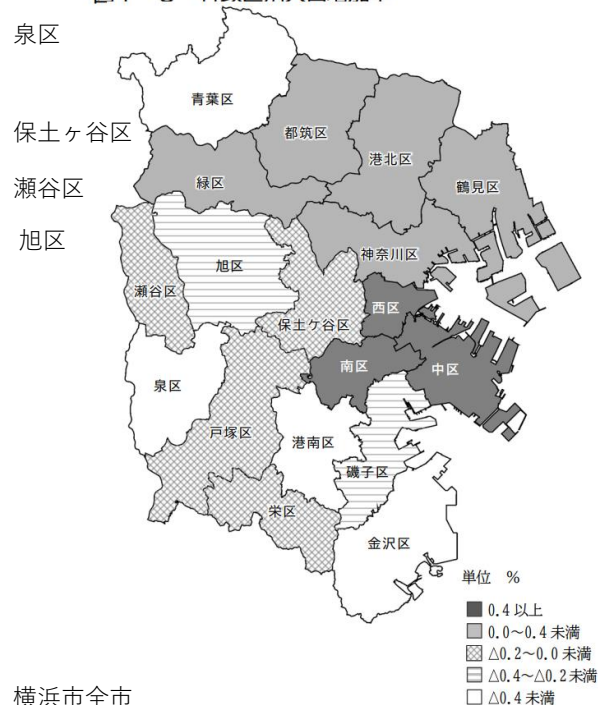


【生産年齢人口】



横浜市各区別
2023年中の人口動態

図1-3 行政区別人口増加率



出典：横浜市人口ポータルサイト

相鉄線沿線の課題と対策

課 題

- ・都心までの時間距離が他社線に比べて長い。
- ・相鉄線沿線の人口トレンドは、横浜市内でも、減少傾向にある。
- ・相鉄線沿線は神奈川県内では一定の認知はされているが、**県外の認知は低い。**
(≡居住意向も低い)

対 策

- ① 都心との時間距離の短縮
⇒ 神奈川東部方面線による都心等への利便性向上
- ② 相鉄線沿線の認知度・好意度の向上
⇒ 相鉄グループのブランド戦略
- ③ 沿線内の利便性・価値の向上
⇒ 相鉄線沿線 6 大プロジェクトによる沿線開発戦略

東京都心への相互直通運転



新横浜駅ホーム

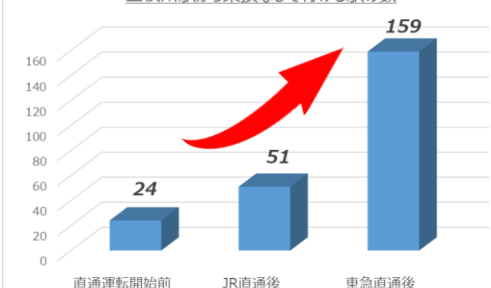
■ JR線との直通

- ・運行本数：約46往復
朝ラッシュ時：4本/時
日中時間帯：2本/時
- ・二俣川～新宿
最速 約44分
(乗換なし)

■ 東急線との直通

- ・運行本数：約100往復
朝ラッシュ時：11本/時
日中時間帯：4～8本/時
- ・二俣川～目黒 **最速 約38分**
- ・湘南台～渋谷 **最速 約51分**
(乗換なし)

二俣川駅から乗換なしで行ける駅の数



デザインブランドアッププロジェクト（認知度・ブランド力向上）



都心直通を契機に、 相鉄のブランドイメージと 認知度向上を図る

- ・ 駅・車両・制服をリニューアル
- ・ 流行に左右されず
時間をかけて醸成するデザイン
- ・ 横浜の街が刻んできた
歴史をイメージした色

「YOKOHAMA NAVYBLUE」

グッドデザイン賞受賞

2016年度 9000系・つり革

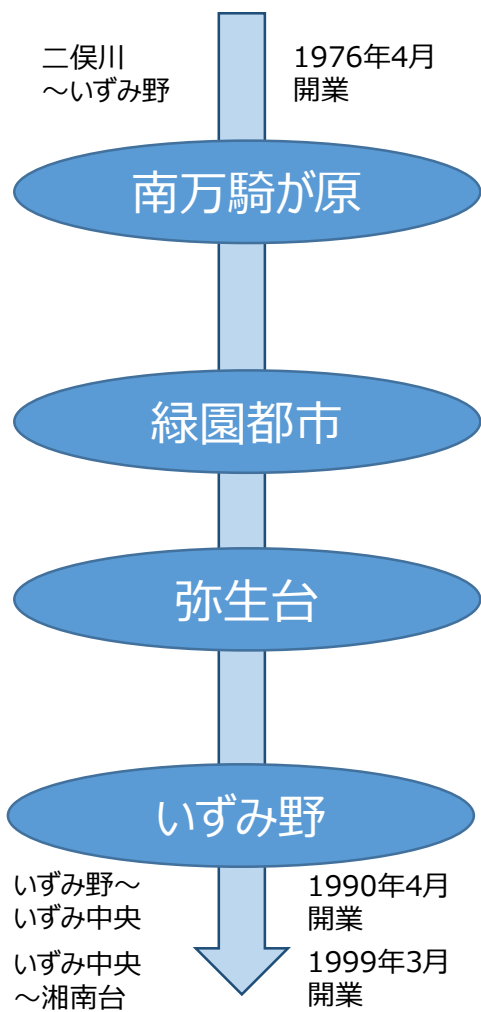
2018年度 20000系

2019年度 12000系と本PJの取組み
鉄道友の会 ローレル賞

2019年 20000系

相鉄いずみ野線のまちづくり（二俣川～いずみ野）

- 相鉄いずみ野線は3期にわたり開業：1期区間（二俣川～いずみ野）は開業から50年近く経過。二次開発を3駅で完了。
 - 駅前には生活利便施設のほか、「ひと」が集まる広場を設け、イベント開催や駅の拠点性向上を図る。また、賃貸住宅も2駅の駅直近に整備
 - 地域資源（活発な市民活動・豊かな自然と農地・多世代の文化）を活用し、郊外住宅地の課題解決のモデルの1つを示したい。
- 2013 横浜市と「相鉄いずみ野線沿線の次代のまちづくりの推進に関する協定」を締結
2016 横浜市・横浜国立大学・フェリス女学院大学と「相鉄いずみ野線沿線における『次代のまちづくり』の推進に係る4社連携覚書」を締結



住み替え循環を進め、幅広い世代が安心して居住できる次世代型の郊外住宅地のモデル事業として展開

- 2015～2016「相鉄ライフ南まきがはら」オープン
- 「みなまきラボ」開設（郊外住宅地の次世代を考える拠点）
- みなまきみらいプロジェクト（多世代共住モデル：賃貸住宅/高齢者向け住宅/分譲住宅を駅前に配置）
- 認可保育園 ■ 学童保育 ■ 病児保育
- みなまき みんなのひろば（駅と街を結ぶ緩やかなスロープ/棚田状・段状の広場空間）
- イベント開催（みなまきひなまつり・地元小学生の企画【MAKIフェス】に協力 など）
- みなまき防災ミーティング
- グッドデザイン賞（2016年度 みなまきみんなのひろばとみなまきラボ/2019年度 みなまきみらい多世代共住モデル）

フェリス女学院大学最寄り駅、活発な市民活動との連携

- イベント開催（緑園街カフェ・地域、大学との協働）
- 相鉄沿線名店プロジェクト（酒と板そば ともしび）

医療と食、コミュニティを軸に日常生活をサポートするまちづくり

- 2017～2018「相鉄ライフやよい台」オープン
- 総合病院サテライトクリニック
- イベント開催（やよい祭・健康やスポーツがテーマ）
- 賃貸住宅の整備
- 弥生台駅桜のライトアップ
- 相鉄沿線名店プロジェクト（ペタルドゥ サクラ【フレンチ】/蒼【和食】）

地域の農的資源を活かした地産地消の推進や、多様な世代が集い交流できる地域密着型施設

- 2014～2016「相鉄ライフいずみ野」オープン
- 地域ケアプラザ、保育所
- イベント開催（いずみ野マルシェ、地域ケアプラザ・連合町内会との連携）

相鉄いずみ野線のまちづくり（二俣川～いずみ野）

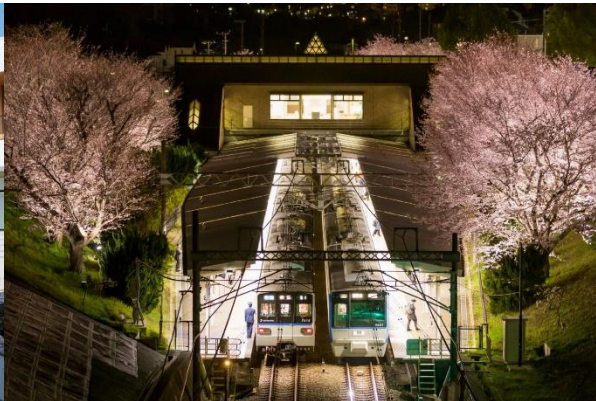
南万騎が原

階段状の「みなまき みんなのひろば」を活用し、「みなまき ひなまつり」を開催。
相模鉄道キャラクター「そうにゃん」や駅係員も参画、駅ホームでの「駅員なりきり放送体験」も実施。



弥生台

駅前の商業施設では、イベントが開催できる円形広場を整備。
桜の時期には「桜ライトアップ」「やよい祭」を実施。



商業施設を管理する相鉄ビルマネジメントでは、毎月第3日曜日に、沿線駅前のSCを巡回する「旅するマルシェ」を開催。



相鉄いずみ野線のまちづくり（ゆめが丘）



2021 航空写真（ゆめが丘駅付近）

■ 泉ゆめが丘土地区画整理事業 計画概要

① 事業の名称

横浜国際港都建設事業 泉ゆめが丘地区土地区画整理事業

② 事業主体

泉ゆめが丘土地区画整理組合
(組合員数180名(令和4年8月現在))

③ 事業期間

2014(平成26)年8月~2025(令和7)年3月(予定)

④ 計画人口

5,200人

⑤ 総事業費

約122億円

⑥ 整備する主な公共施設の概要

幹線道路、公園、補助幹線道路、雨水調整池、駅前広場等、
区画道路、その他施設



2024.4 ゆめが丘総合病院オープン



2024.6予定(賃貸住宅)/2026.3予定(分譲住宅)



グレースシア
ウエリス横浜ゆめが丘

335戸からなる大規模分譲住宅



KNOCKS ゆめが丘

賃貸住宅(先進の木造建築)



2024.7予定 駅リニューアル、新改札口設置

相鉄いずみ野線のまちづくり（ゆめが丘）



**YUMEGAOKA
SORATOS**

2024年7月 オープン予定

ゆめが丘周辺にある地域資源を豊富に生かし、「食」「アクティビティ」「教育・文化」など、さまざまな体験ができる交流型集客施設。屋上には、約3,000㎡の遊具付き公園も配置。地域最大級10スクリーンの大型シネマコンプレックスや、豊富な種類の約130店舗が出店を予定。

施設コンセプト

～ゆめが丘から生まれるローカルライフ、住まう・働く・訪れる。

すべてのひとに届く、自分らしい“毎日”と深まる“満足”～

循環型社会への取り組み

- 太陽光パネル設置（CO2排出量を年間約780 t 削減）
- SAF（Sustainable Aviation Fuel）廃食用油の回収・利用
- 衣服の再資源化
- 生ごみの堆肥化／中水利用
- 自動配送ロボットの導入



■屋上広場『そうにゃんぱーく そらの広場にゃん』（屋上）

高架下開発・活用の事例（相鉄本線 星川駅～天王町駅間）

下町情緒のある
住人のロイヤリティ

都心部から感度の高い
人々を呼び込める場所性

自然がある
穏やかなコミュニティ

YBP・横浜国立大学など
クリエイティブな人材の存在

これらを高架下が
有機的に結びつける

環境資源・地域コミュニティに支えられ、
新たな人材が発掘・育成され、
挑戦的な活動ができる「星天」

連続立体化で9か所の踏切を除却→1.4km／25,000㎡の空間が創出



地域の特性に合わせた5ゾーンを設定、コンセプト体现のためストーリーを持って
主に分棟形式のレイアウトを採用し「余白」を持たせ、多彩な空間を展開していく

高架下開発・活用の事例（相鉄本線 星川駅～天王町駅間）



Zone
D

「変化を楽しむ人」が新しい生き方を実践。
まちと世界を変える人々と、
アイデアを育成する拠点。

コンセプト：これからの住まい方、働き方の提案

- クリエイター向けシェアハウス（各個室に「はなれマド」を付帯。小商いやギャラリーにも）
- クリエイター向けコワーキングスペース
- 横浜国立大学 共創促進開発拠点
- 貸切サウナコテージ
- 北欧（フィンランド）カフェ



相鉄線沿線を感じてもらイベント (Yokohama Nature Week)



相鉄線沿線の魅力の一つでもある自然の中で上質な時間の過ごし方を提案するイベント

- 横浜市旭区と共催：
横浜市内で最大級の面積を誇る「こども自然公園」で開催
- 今回で5回目の開催。前回（2023年）は約26,000人の来場
- 今回のコンセプト 「くらしを遊ぶ。しぜんと育つ。」
- コンテンツ
 - ・自然環境と調和した心地よいライブステージ
 - ・遊具を設置したキッズパーク
 - ・キッチンカーやマルシェによる物品・飲食販売
 - ・地域住民によるフリーマーケット＋二俣川駅前のマルシェ

今年も5月17日（金）～19（日）に開催します！！



ご清聴ありがとうございました！